

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	資質・能力の育成
目標（評価規準）	子どもが子どもの言葉で語り合っている。	
重点に係る現状 設定理由	<p>○小規模校化が進み、多様な考えを出し合い新たな解を作る場面を意図的、計画的に設定する必要がある。これを「強み」と捉え、全教職員が一人ひとりの児童の学習状況を多面的、多角的に把握しながら学力の三要素の定着、伸長を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「算ノート」、「言葉のトレーニング」による計算力の向上や語彙の増加が確認できている。今年度は朝の学習の時間を設定し、基礎学力を定着、伸長させていきたい。 ・授業研究を中心に学校研究を活性化させ、「主体的・対話的で深い学び」を追求する。 ・学習指導要領の教科の目標に沿って、体育、音楽、生活において2学年合同の授業を追求していく。 ・新設したグローバル表現科の推進を図る。 ・地域素材を教材化した問題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力を高める。 	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>設問1 創造的な教育活動 今年度新設のグローバル表現科については、職員同士の情報交換を中心に進めた。昨年度同様、合同授業や交換授業など意欲的に取り組んだ。職員の創造性を生かした教育活動を展開できた。</p> <p>設問2 基礎学力の定着 基礎基本の学習については朝の学習の時間を作り、定着、伸長を図ったが、十分とは言えない。</p> <p>設問3 認め合い高めあい 学校研究のテーマ「子どもが子どもの言葉で語り合う」の実現に向けて、研究授業を重ねた。外部講師の計画的な招へいにより、職員の授業への意識が高まった。</p> <p>設問4 家庭学習の充実 計画的に実施できていない。児童、保護者への周知、啓発面で未だに不足感がある。</p>
各アンケート等の結果	<p>設問1 創造的な教育活動 グローバル表現科の学習を中心に創造的な授業展開は進んでいる。</p> <p>設問2 基礎学力の定着 基礎学習の取り組みの効果を実感できていない。</p> <p>設問3 児童は話し合い活動に苦手意識がある。</p> <p>設問4 家庭学習の充実 保護者への啓発と児童の指導が必要である。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ・合同授業や交換授業は来年度以降も継続していく。多面的な児童理解、系統的な学習、中学校の教科担任制へのスムーズな移行などの効果が期待できる。 ・グローバル表現科についても今年度の実績の上に学習時間を増やし、学習内容を広げていく必要がある。 ・基礎学力の向上については、朝学習の時間の効果を実感できるような工夫、また、学習持久力の向上も含めた手立てを検討する必要がある。 ・学校研究テーマ「子どもが子どもの言葉で語り合う」を次年度も継続していく。多様化、グローバル化が急速に進む現代においては必要不可欠な子どもの姿とらえている。 ・家庭学習についてはこれからも児童および保護者へ説明をしていく。また、職員間の共通理解も深め、系統的、組織的に実施していく。
学校関係者評価結果	<p>グローバル化が進む現代において、外国語が日常にあることは三崎小学校の子どもたちにとっては好影響がある。このまま推進してほしい。</p>
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・合同授業や交換授業は効果や方法、学習指導要領の理念の共通理解を図り、今後も継続していく。 ・グローバル表現科の推進を続ける。常駐するALTの効果的な活用を探る。 ・「主体的、対話的で深い学び」の追求のため「子どもが子どもの言葉で語り合う」をテーマとした学校研究を活性化させる。 ・家庭学習については意義や方法を児童に指導し、保護者への説明を続けていく。

本年度の重点	2	良好な人間関係の構築
目標（評価規準）	より良い人間関係を築きながら、すべての児童が自分らしく、生き生きと活動している。	
重点に係る現状 設定理由	・小規模校化が進んでいる状況から、子どもたち同士が多様な人間関係を構築する力の育成が急務であると考えている。授業や行事はもとより、学校生活全般を通してお互いの個性を認め合いながら、良好な人間関係を育める学級、学校づくりを進める。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<p>設問5 基本的な生活習慣・規範意識 一斉指導で落ち着かない児童への対応に苦慮している場面が見られるが、職員の協働により改善してきている。</p> <p>他の設問項目の結果はおおむね良好であるといえる。</p>
各アンケート等の結果	<p>設問7 安全への配慮・防犯・防災 施設面への不安が表れている</p> <p>他の設問項目の結果はおおむね良好であるといえる。</p>
自己評価結果 （見解と改善方策）	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導で離席が目立つ児童への対応は、専科教員やことばの教室担当、SSSの配置など複数の教員が教室にいる状況を作り、児童指導委員会を中心に組織的に行ってきたため改善が見られた。今後も職員会議での全職員の共通理解、担当を決めての研修など粘り強く取り組んでいく。 ・児童間のトラブル等については個人で対応せず、校長と教頭を含めた児童指導委員会に対応する場がある。細かい点も含めて、当該児童や関係児童に十分に話を聞き、保護者と共通理解を図りながら人間関係の構築に努めていく。 ・保護者との情報交換、共通理解を図り、児童の倫理観の高揚を図っていく。 ・人権教育を推進し、思いやりの心を育みつつ、小規模校の良さを強みとして、認め合い高め合いにつながる教育活動の推進を目指す。
学校関係者評価結果	<p>全教職員で全校児童をみることは、多面的な児童理解につながる。今後もチーム三崎で対応してほしい。</p>
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童指導については教職員間の共通理解を図りながら今後も組織的な対応を続けていく。 ・人的配置の範囲内で教員の複数配置を追求したい。

本年度の重点	3	地域とともにある学校づくりの推進
目標（評価規準）	保護者、地域と協働しながら教育活動を進めている。	
重点に係る現状 設定理由	・開校150周年事業の成果の上に、グローバル表現科の目標にもある「郷土三崎を愛し」を中心に据えながらPTA、記念事業準備実行委員会と連携を進めていく。歴史と伝統のある三崎小学校、地域に愛されている三崎小学校であることを常に意識し、その期待に応えられるよう「三崎らしさ」を大切にしつつ、家庭・地域と協働した学校づくりを進める。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○どの設問でもおおむね自己評価はいいが、A評価が下がっている。 「もっとやれた」という意識の表れであると捉えられる。
各アンケート等の結果	設問9 各種通信 写真を多用して学級の様子を伝えてきた。保護者からは「子どもたちの様子がよく伝わってくる」という高評価が得られている。 その他の設問項目の結果もおおむね良好である。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<ul style="list-style-type: none"> ・150周年記念事業で得られたPTA運営委員を中心とした保護者、地域の協力を教育活動に生かした。今後も継続して教育活動に関わる学校の考え方、教育活動の様子を発信し、地域に信頼される学校、地域に根差した学校づくりを目指していく。 ・グローバル表現科にある「郷土三崎を愛し」のため、地域素材の教材化、地域人材の効果的な活用を進めていく。
学校関係者評価結果	グローバル表現科にもある「郷土三崎を愛し」を続けてほしい。人口の流出抑制にもつながればといいと願っている。
最終改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材の教材化や地域人材の効果的な活用、地域単元の蓄積等、三崎を愛する気持ちを育てる教育活動を進めていく。 ・重点1、重点2にあるような改善方策を遂行しつつ、学校の情報を保護者や地域へ積極的に発信し、地域に開かれた学校、地域に根差した学校づくりを進めていく。